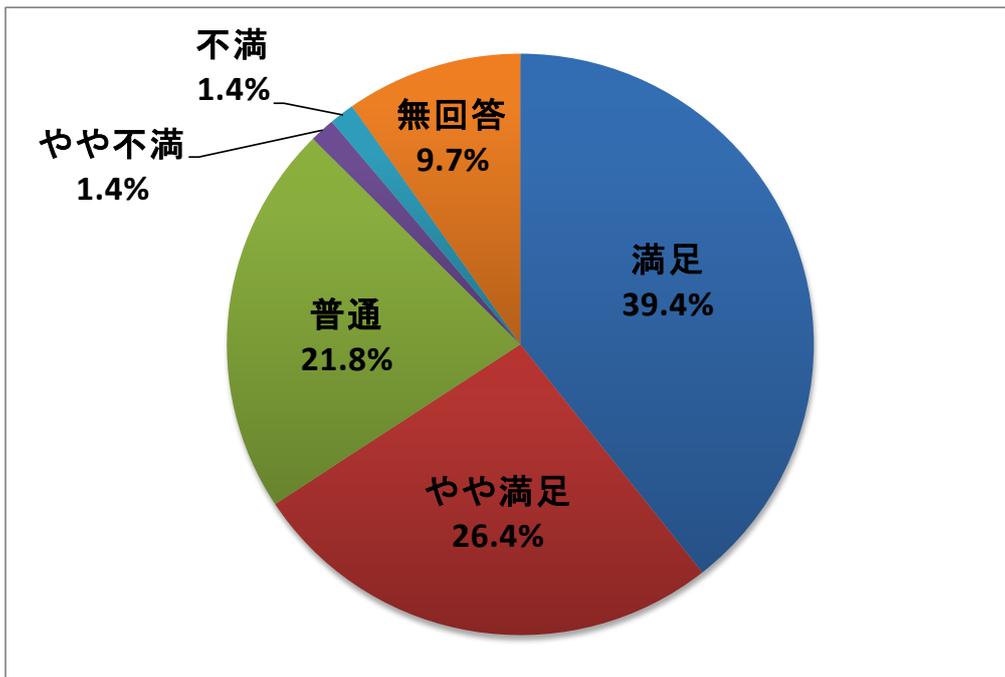


平成 23 年度 「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」 研究開発領域
第 1 回領域シンポジウム

アンケート結果

■集計結果 (回収数 216 件)

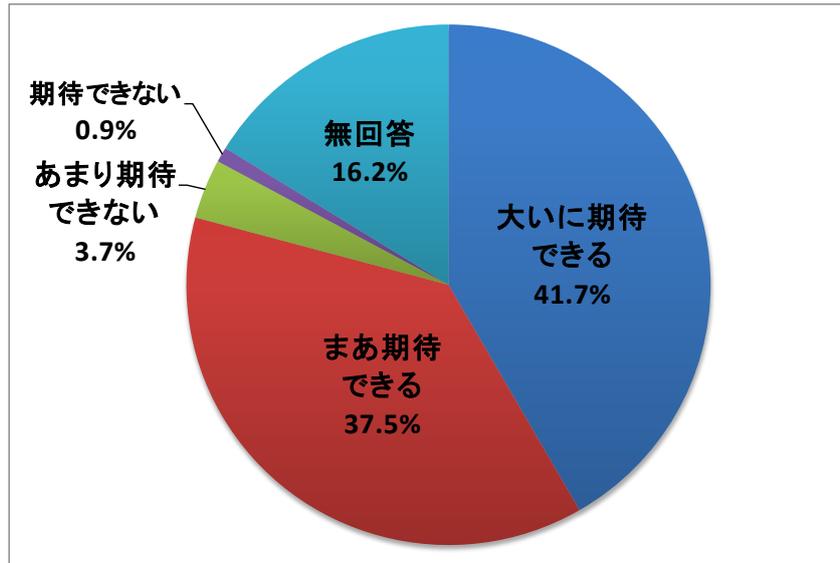
1. 「基調講演」について



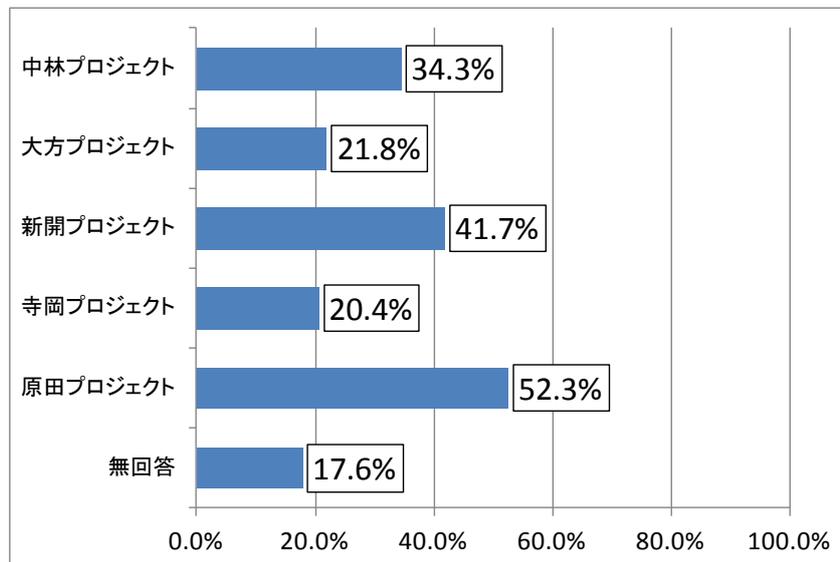
◆「基調講演」に関する主な意見

- 老年学の全体像、歴史が把握できた。
- 老人学を始めて知った。勉強不足を痛感。
- 老年学の歴史と発展について知見を得ることができた。
- ジェロントロジーの歴史を理解できた。もう少し詳しく聞きたかった。
- 「老化」をめぐる認識が、ここ 30 年で、劇的に変わったことを知った。
- 断片的だった知識を大きな流れとして理解できた。新たな知識をかくとくできた。
- 高齢者問題への取り組みの歴史について全体像を理解することができ参考になりました。
- 時間的にももう少し長くお聞きできれば良かったと思います。
- 横文字が多い。一般人も分かり易いようにしてほしい。
- 私には専門的すぎて理解に及ばなかったと思っております。「老い」を学ぶべき個人が、それを知らずに生活を続けています。日本は社会として高齢者が生きやすいものを実現できずに今日があるということなのかと印象を持ちました。

2-1. 平成 23 年度採択プロジェクトについて



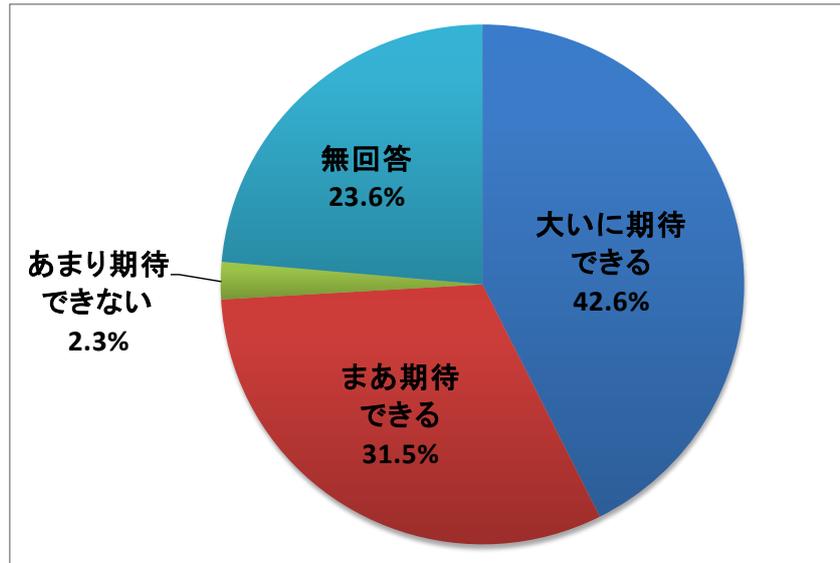
2-2. 平成 23 年度採択プロジェクトで関心を持たれたプロジェクト (複数回答可)



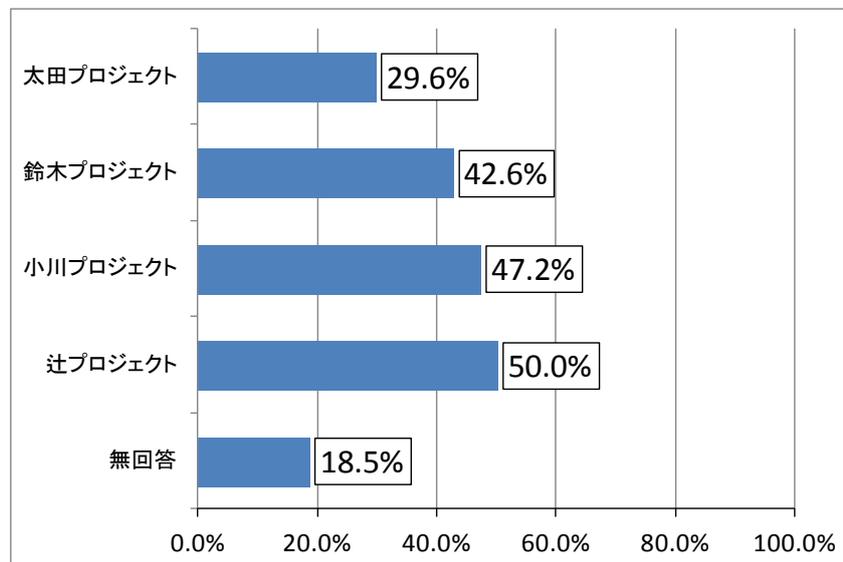
◆平成 23 年度に関する主な意見

- どれも高齢社会に対する意味合いを十分に含んでいるのではないのでしょうか。【複数 PJ 選択】
- 健康余命を延伸する為の対策（コミュニティデザイン、コミュニティビジネス+健康づくり）が高齢社会を活力ある社会にできると思う。【複数 PJ 選択】
- 高齢者にピンポイントに当てるのではなく、社会の一世代として、一緒に社会コミュニティに参加貢献できるシステム、コミュニティを構築できればと思います。【複数 PJ 選択】
- コミュニティの再生再構築というキーワードを示してくれる現場に立脚したすばらしいプロジェクトだと思った。富山プロジェクトは文字通り社会インフラをうまく活用していると思う。【中林 PJ】
- 被災地はもちろん、都市部でも参考となるプロジェクトだと感じます。経過が楽しみ。【大方 PJ】
- 認知症にかかる時期を延ばしたいと思う自分にとって大変興味深いものがあります。【新開 PJ】
- 農業は今後も大切。その中で、高齢者が取り組みやすくする農法は注目した。【寺岡 PJ】
- みんなラボのプロジェクトは観点が非常に面白く、100 兆円産業といわれているシニアビジネスの活性につながることを期待される。【原田 PJ】

3-1. 平成 22 年度採択プロジェクトについて



3-2. 平成 22 年度採択プロジェクトで関心を持たれたプロジェクト (複数回答可)

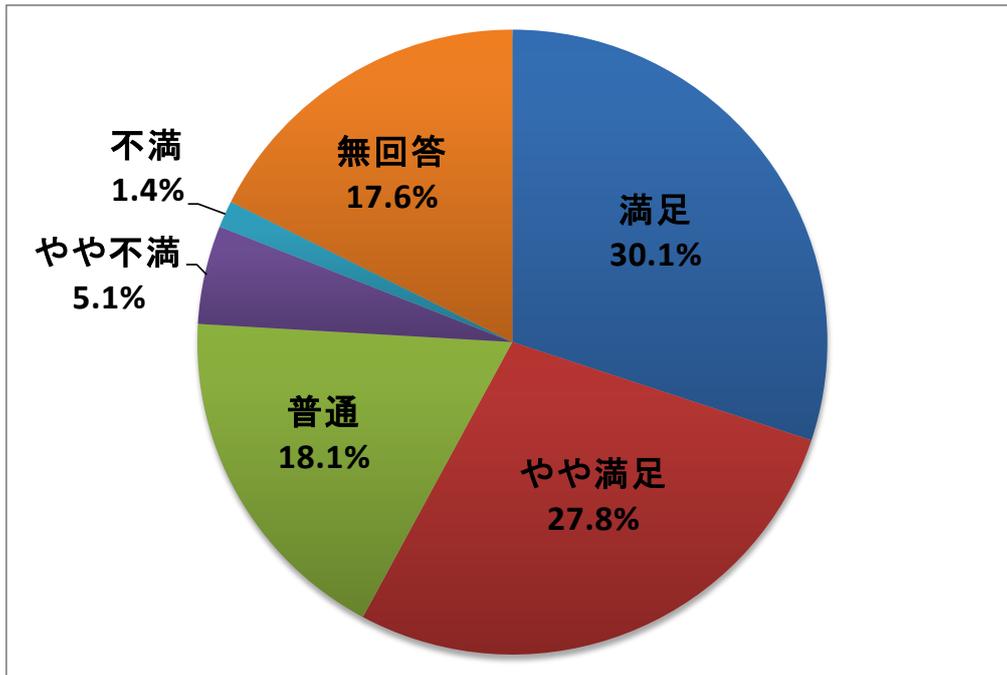


◆平成 22 年度採択プロジェクトに関する主な意見

- 内容として面白く、現場に接した内容であると理解している。おそらく、継続的になる為には、現実の人達が自らやりたい参加したいと思う/思わせる事だと思う。研究者がいつのまにか居なくなっていた。そして現場はそのまま動いていたとなって欲しい。【複数PJ選択】
- 1年半たっているので具体が見えてきてよかった。わかりやすく、今後にも期待ができる。プロジェクトに対する質疑が行えるとよかった。【複数PJ選択】
- 見守りシステムがこれからは大切だと思いますし、高齢者の労働力も必要です。【複数PJ選択】
- 病気ではないので自宅で終末を迎えた時、警察へ連絡となります。死亡した時に医師が来て死亡診断書を書くシステムならもっと自宅で死を迎えられると思います。【太田PJ】
- 今の高齢者はかつての高齢者より 10才は身体的にも精神的にも若い、というメッセージ。将来の日本社会の活力の維持のためにも高齢者に活躍して欲しいと思う。【鈴木PJ】
- 働ける内は働くことが社会参加となる。少額でも良いので賃金が支払われた方が長続きすると思うし、サービスを受ける側も良いと思う。【辻PJ】
- 高齢者の見守りの工夫が我々の地域ではここまでやっていないので参考になった。【小川PJ】

4. パネルディスカッション1

「高齢者がはつらつと暮らすコミュニティとは」について

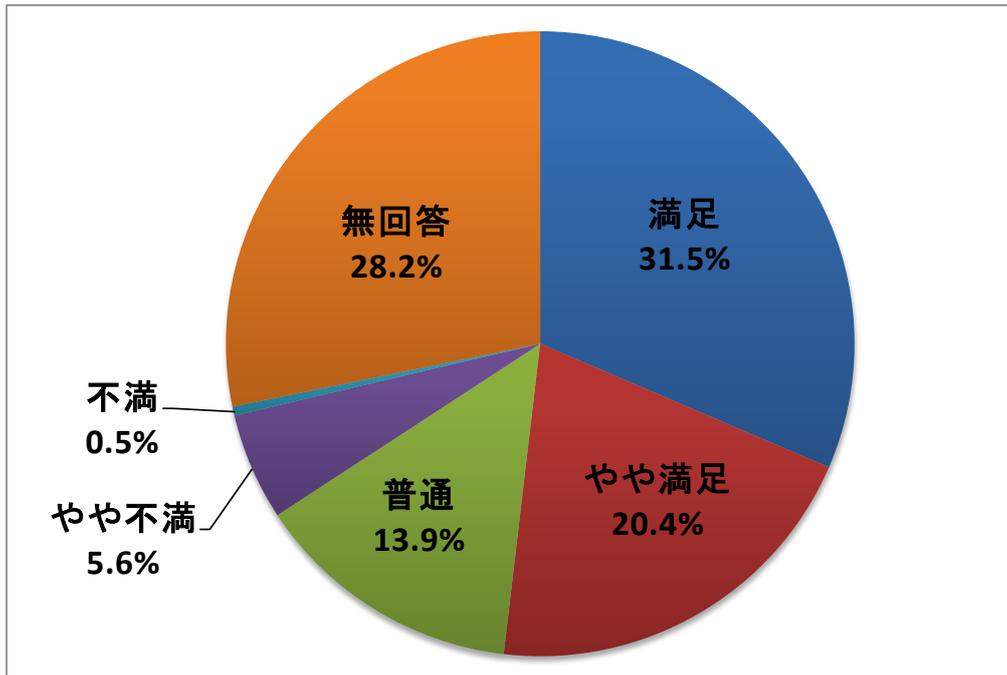


◆パネルディスカッション1に関する主な意見

- 高齢者が活躍できる就労の場を図に整理していただいて、話を聞きやすかった。農業以外にどんな就労ニーズがあるだろうか。
- 個人やコミュニティだけではなく、行政や企業と地域（コミュニティ）の接点における社会制度の組み替えとコーディネーターの役割を具体的に明示していくようにプロジェクトを進めて欲しい。
- コミュニティ作りの大切さを感じました。産官学の連体で新しい就労の機会を産み出す知恵を出し合う大切さ。
- 高齢者の文化を作っていく。いろいろな高齢者がいて、地域でコミュニティを作ろうとしても、なかなかのってこない人が多く、「乗らせるにはどうしたらよいか」のテクニックがあったら知りたい。ライフデザインの作り方をどうするか。
- アクティブシニア（男性）が外に向けての生きがいばかりではなく、家庭内での自立（自律）度がどれだけ元気な時に形成できるかが問われないのは疑問です。それがまずベースにあってこそその地域貢献ではなのかと思います。
- 高齢社会に於けるActive Seniorの生き方、即ち+10年の就労の創出に関する青写真を創るには、この中に行政や産業界の知恵を入れてディスカッションしないと発展性がない。
- 10年前リタイア。間もなく後期高齢者ですが、この間ずっと思うに、地方ではいざ知らず、都会では地域コミュニティなるものはまず無理ではないでしょうか。
- セカンドライフへの切り換えはむずかしいです。サラリーマンも“先生”に転職することが多い。尊厳ある働き方、仕事を創出する必要がある。今の社会状況、価値観では、老いも若きも尊厳を保つためにひきこもるのでは・・・。
- 個人やコミュニティだけではなく、行政や企業と地域（コミュニティ）の接点における社会制度の組み替えとコーディネーターの役割を具体的に明示していくようにプロジェクトを進めて欲しい。

5. パネルディスカッション 2

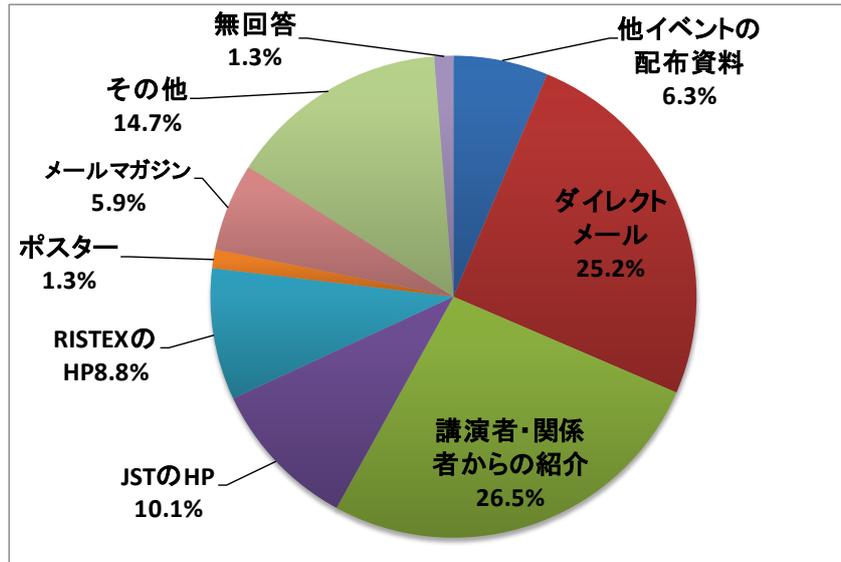
「生涯安心して自分らしく住み続けられるコミュニティとは」について



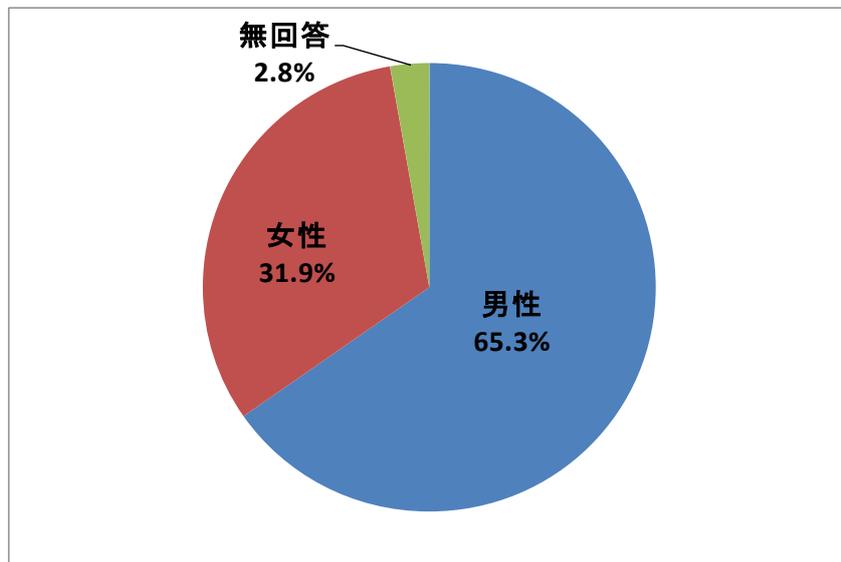
◆パネルディスカッション 2 に関する主な意見

- 健康余命を支えてきたのは誰か？家庭内の生活の質を支えてきたのは誰か？支えてくれた人がいなくなった時にどうしたらよいのか。パートナーに依存しすぎていないか？元気なシニアが介護福祉の地域貢献を（家庭内でも）ぜひ目指してほしい。
- もっと多様な研究領域からの参画が必要と思いました。このままじゃ地域居住を支えられないんじゃないのかしらと不安。
- 目的がはっきりしたプロジェクトで対象も明確なフィールドでの期待できる実験プロジェクトだと感じました。終末期医療や安楽死の検討なども必要な時期でないでしょうか。
- いろいろな地域、ステークホルダーの違いによる成功例、失敗例の話がおもしろかった。
- マルチステークホルダーの体制づくりや継続的な参加が課題。地道な努力しかない。
- 公共事業として、コミュニティをつくることの必要性を確認した。
- 資源がない中でのコミュニティづくりで、とても先の長い取り組みとなることを思いつつ、取りくまなければいけないと気持ちを改めて持つことができました。
- 各診療所が主治医制をとってもらえるとよい—その為には老人が具合がわるくなった時に往診してくれたら、自宅で死を迎えられると思うのですが・・・。
- 「生涯安心して自分らしく」という言葉や社会づくりがそもそも実現不可能性が強く、どの様にイメージできるか疑問。
- 何も決められない社会がくる。その通りだと思いますが、では解決方法は。田舎に行くと・・・しかしそこは自給自足など全く出来ない、車無くして生活できない場所では？
- エイジングインプレイスの意味がまだまだ理解することが出来なかった。このシンポジウムの目的は「地域づくり」もその一つかもしれませんが、組織・地域に属する人達の幸福と思います。

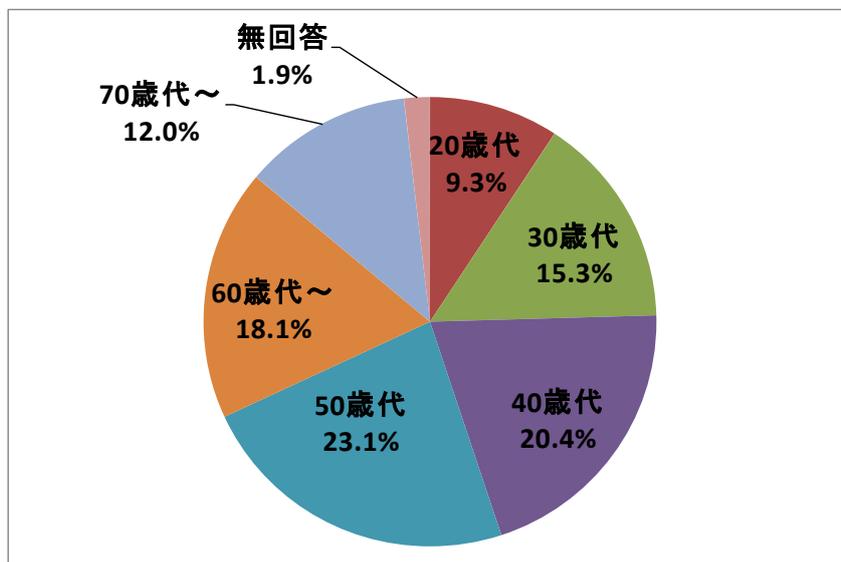
6. 本シンポジウムを何でお知りになりましたか？



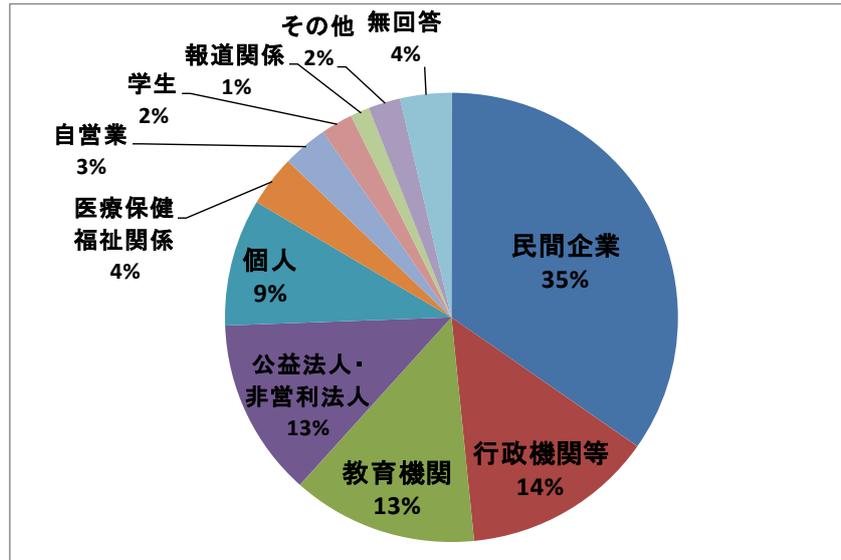
7. 性別



8. 年齢



9. ご職業



◆シンポジウム全体へのご意見

- 高齢社会の抱えている問題等が、少しずつ解ってきた。私も十数年後には高齢者の仲間入りをします。この時どのように社会に貢献出来るか今から、準備にとりかかりたいと思っていて、その参考になりました。
- 数が多い為に内容が若干希薄になっている。もう少し掘り下げた内容がほしかった。
- 高齢化社会を如何に生かし、健全で人生を送れる仕組みを地域に作るのは重要である。
- れからの分野ですので、各機関が連携し、より良い高齢社会を築いていけたらと思います。若年層もこれらのシンポジウムに参加出来るよう、広報活動も含めて頑張ってもらいたいです。
- 海外の研究と比較して重要なテーマに取り組んでいるのか。世界に先駆けてモデルを作るには、海外の研究を含めてテーマの評価を行う必要があるのでは？
- 講師の方々の熱意が伝わってきました。高齢社会に対応するための社会技術研究・開発の重要性が理解できました。今後に大いに期待したいと思います。
- 質疑応答の時間がなかったのが不満でした。これからそれぞれの研究部門でどのような結果が出るのかを楽しみにしています。
- 自分は高齢者をパートタイム職員として雇用している非営利団体の経営をしています。30代です。その経験から、高齢者が活躍するコミュニティビジネスを経営するのは中堅世代の役割ではないかと思っています。
- コミュニティビジネスの流れ、可能性についての議論を深めていただきたい。次回を楽しみにしています。
- 1人1人の時間を長くして、目的・ねらい、リサーチ、方法論、評価などをしっかりと話せるようにしてほしい。各9テーマに共通して、課題が明確であり、分析が構造化されており、解決策に向けて着実にとりくまれていると感じました。その解決のアプローチは多様であり、ノウハウや学びという点を整理して理解し、活かしていきたいと思っています。
- 担い手の発掘、育成、組織化のプロセス、アライアンスの進め方等。“アクションプラン”にブレークダウンするための方法論について、さらに具体策が開発されることを期待したい。

- 他のシンポジウムでは手法結果のみが報告されることが多い中、経過報告、多数事例について平行して聞いたことが有意義と感じました。
- ICT に関わっておりますが、今回のシンポジウムに参加し、社会システムのデザインという分野で自分の知識を生かせるのではないかと思います。日本から世界に新しいモデルを発信してゆけるよう考えてゆきたいと思います。
- プロジェクトに対して質疑の時間があるとよかった。H22 と H23 では進捗状況が違うので、H22 プロジェクトの方が長い時間をとってほしい。プレゼン資料と配布資料は同じものにしてほしい。個別プロジェクトごとでもいいので研究の状況や成果をくわしく聞ける機会をぜひ設けてほしい。
- 各発表は、かなり実践データが積み上がっていると感じた。高齢化時代における現実的な問題を実感した。
- もう少し、行政の役割が明確に示唆していただけるとよかったと思います。
- ハードの設計に関わる者として、ソフトの部分（心のケアなど）とどう連携していくか、そのシステムを築くにはどうしたらよいか、その部分（アクション・リサーチ）についてももっと知りたいです。個人的にも、親の介護に希望が持てるような様々な研究に触れることができて、勉強になりました。どうもありがとうございます。
- 高齢者をともしれば医療、介護、年金等ささえる対象としてとらえがちであったが、Productivity という概念により、介護にしても老々介護を暗いイメージでとらえず、世代内の共助の形としてとらえる視点を持っていきたいと感じることができた。その意味で知的な刺激をえる良い機会であった。
- リタイアした途端に地域コミュニティしかないとしたら無理な話です。例えば 10 年前から盛んに言われていた NPO は何千とあるはずですがさっぱり（今日の話しの中にも）聞こえてこない。検証されているのでしょうか？役所受けの良い話をつくっているとの悪口も聞こえそうです。私はむしろ facebook の様なものを高齢者にも普及させた方が良い。孤独死もむしろ専業者によるシステム化が望ましいと思っています。
- パネリストそれぞれ迫力あるご意見、専門性に裏打ちされ聞きごたえがありました。高齢社会突入のこの時期大変タイムリーな話題提供であったと思います。パネルディスカッションの内容の充実、みごとだったと思います。
- 老化は有害ではない。高齢者は社会の担い手、高齢者は最高のテスターである。等のキーワードから地域コミュニティの活性化について、地元でためしたい。
- 社会問題である高齢化を、色々な切り口で研究されており非常に参考となりました。官の施策だけでは限界がありますが、産学一体になれば未知数の可能性があります。
- 高齢者のことのみ注目しているが、社会の中には、他の年齢層の人もたくさんおり、そうした人たちとの共存ということの議論が必要ではないかと考えた。男性の仕事が重要だが、それは地域内ではなく、テレワークのような可能性もあるのではないか。
- 高齢者に最も重要な経済的側面に言及する研究報告が無かったのは残念。その分析が必要だと思われる。次の機会を期待します。
- 超高齢化社会に向けては各種分野が共同でまちづくりに対応していくことが重要だと実感しています。この活動をもっと日本中に広めてほしいです。